

# BIMONTHLY REPORT

バイマンスリーレポート  
No.

401

SENDAI KEIZAI DOYUKAI

2020.4.20

## [特集]

**伊達政宗の命により  
慶長遣欧使節として  
粘り強く外交交渉を続けた  
支倉常長。  
その苦難の後半生をたどる**



ユネスコ記憶遺産・国宝 ローマ市民権証書 仙台市博物館蔵



ユネスコ記憶遺産・国宝 支倉常長像 仙台市博物館蔵

## [巻頭言]

**COVID-19その後を見据えて  
今、やるべきことを考える**

株式会社ホテル佐勘 代表取締役社長／佐藤 勘三郎

## [Pick Up]

2019年度 学生交流プログラムの実績

# COVID-19その後を見据えて 今、やるべきことを考える

**東**京オリンピックイヤーとして明けた2020年は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の拡大という深刻な状況で、世界中を混乱に陥れています。特に私どものような宿泊業はキャンセルが相次ぎ、宮城県内のホテル旅館関係の損失額は2月末時点で11億円を超えました。「大変でしょう」と、さまざまな方からご心配をいただいておりますが、先が見えない状況は、どの業界も同様で旅行業界だけが特別、という段階ではなくなったと感じています。今は、行政支援を訴えるだけでなくそれぞれに自助努力で難局を乗り切って、その先を見据えていきたいと考えています。

今、思っていることは、現時点ではいつになるのか分かりませんが、必ず来る新型コロナウイルスの終息後、新しい観光をどう作っていくか、ということです。ひとつには、旧態依然とした業態を改めて、きちんと収益が上がるような企業に変えていくこと。それにはテレワークを進めることも重要です。私自身、旅館業とテレワークぐらい相性の悪いものはないと考えていたのですが、見直せば予約業務など、自宅作業が可能な仕事も多々あります。また従来から東京に置いてきた出先機関は、ネット予約が増えてきた現状では必要性がなくなりました。そこで東京営業所をなくすことにしました。よくも悪くも今回のことがきっかけで、不要になっていた従来の慣習を見直すことができたと考えています。

もうひとつは、世界中の観光地とも競争していけるような、魅力ある観光の在り方をさらに追及していかなければならないという

ことです。現在の日本では、本来よかれと思って作られている法律が、いろいろな分野で足かせになっているのではないのでしょうか。遠隔診療が進んでいる中国の医療事情を知って驚いたのですが、この分野では日本はずいぶん水が開けられていますね。旅行業も同じで、コロナ禍のあといっせいに閉鎖が解除されるだろう世界中の観光地と競争していくには、旅行業法の緩和が必要だと思うのです。昨年、私どもでは旅行会社を立ち上げました。タクシーを使って秋保を起点にした着地型観光を実施するためには旅行業のライセンスが必要だったのです。しかし、正式に資格を取得するには、準備期間も費用負担もたいへんです。ですから、ショートトリップやイベントに関しては、もう少し規制を緩和して、スピード感のある対応を可能にする必要があると思います。

今、JR東日本と共同で、MaaS(Mobility as a Service)の実証実験を進めています。これは、スマホアプリを使ってタクシーやオンデマンド交通、商業施設を連携させようという試みです。まさに秋保地域でやろうとしていたことで、地域内の観光の新たな可能性を広げる後押しになるだろうと考えているところです。

仙台経済同友会には、さまざまな業界・業種の人材が集っています。今まで想像しなかった企業同士のマッチングによって、新しい商品を社会に出していくことが今後いっそう重要になると思います。厳しい現状ではありますが、オープンマインドで、“できないこと”ではなく、“できること”を皆さんといっしょに語り合っていきたいと考えています。

# 2019年度 学生交流プログラムの実績

学生交流プログラム「東北の魅力・可能性を探求しよう! Z-1チャレンジ」は、地元大学生と会員企業が交流しながら、企業の経営課題や東北の魅力を考えるという試み。仙台経済同友会 少子化高齢化対応委員会、人材育成委員会共同企画として2019年10月4日~12月7日、全6回が行われ、大きな成果を上げました。そのプログラム内容や実績について報告が行われました。

## 企画・運営

特定非営利活動法人「アスヘノキボウ」

東日本大震災を機に宮城県女川町で生まれたNPO法人。「日本という世界の社会課題先進国の中でも、社会課題が最も進む地方の社会課題を解決することで日本・地域の社会をより良くすること」をミッションに様々な社会課題解決事業を国内外のパートナーと取り組んでいる。

## 参加人数及び参加大学

21名(男性15名、女性6名)

東北大学、宮城大学、東北学院大学、東北福祉大学、東北工業大学、石巻専修大学、山形大学、東京大学

## プログラム全6回内容をご登壇者

第1回	<b>東北を代表する企業／企業化と学生交流 プログラムキックオフ</b> アイリスグループ 会長 アイリスオーヤマ株式会社 代表取締役会長	大山健太郎
第2回	<b>東北を代表する企業様の課題解決策を考えよう①</b> 株式会社ホテル佐勤 代表取締役社長 株式会社仙台買取館 代表取締役 株式会社ビルワーク・ジャパン 総務部広報課 課長	佐藤勲三郎 櫻井 鉄矢 大泉 一之
第3回	<b>東北を代表する企業様の課題解決策を考えよう②</b> 株式会社ホテル佐勤 代表取締役社長 株式会社仙台買取館 代表取締役 株式会社ビルワーク・ジャパン 総務部広報課 課長	佐藤勲三郎 櫻井 鉄矢 大泉 一之
第4回	<b>東北を代表する企業家の話を聞こう①</b> 株式会社ライフブリッジ 代表取締役	櫻井亮太郎
第5回	<b>東北を代表する企業家の話を聞こう②</b> 株式会社仙台買取館 代表取締役	櫻井 鉄矢
第6回	<b>最終成果発表会</b> アイリスグループ 会長 アイリスオーヤマ株式会社 代表取締役会長 株式会社ビルワーク・ジャパン 代表取締役社長 CEO 株式会社仙台買取館 代表取締役 株式会社ビルワーク・ジャパン 総務部広報課 課長	大山健太郎 納庄 国英 櫻井 鉄矢 大泉 一之

プログラム全体を通しての参加学生からは、

- 宮城県内の企業が抱えている課題について考える貴重な機会となった。
- 東北がこれから大変化を遂げていく可能性について感じる事ができた。
- 普段会えない経営者の方とお話できて、非常に刺激になった。

ほか、多くの感想が寄せられました。



第1回キックオフでは、大山健太郎代表幹事より「世界、日本、東北のこれからについて講話があり、その後、学生との活発な対話が行われた



ホテル佐勤 佐藤勲三郎社長、仙台買取館 櫻井鉄矢代表取締役、ビルワーク・ジャパン 大泉一之総務部広報課長より提示された企業課題について、各3チームに分かれて解決策を考えてプレゼンテーションを行った



最終発表。参加学生が「今回の学びと今後のアクション」についてプレゼンテーションを行い、大山会長はじめ4名の経営者が審査。熱心な質疑やていねいなアドバイスもあり、学生諸子には貴重な機会となった

2020年2月・3月・4月の月例会は、新型コロナウイルス感染症対策のため中止となりました。

**[特集]**

伊達ものがたり5  
支倉常長その巻

# 伊達政宗の命により慶長遣欧使節として はせくらつねなが 支倉常長。その苦難の後半生をたどる

1613年、伊達政宗の命で家臣の支倉常長は慶長遣欧使節としてサン・ファン・パウティスタ号に乗り、スペイン領メキシコとの交易などを求めて太平洋を渡りました。それから7年の時を経てようやく仙台へ戻って来たのは1620年。つまり、2020年は支倉常長が仙台に帰着してからちょうど400年目にあたります。伊達政宗からの使命をなんとか成就させようと苦難の旅を送った支倉常長の人生について、仙台市博物館の学芸員である佐々木徹さんに伺いました。



さ さ き とおる  
**佐々木 徹さん** 仙台市博物館学芸員

**Profile**

東北大学大学院国際文化研究科博士課程修了。専攻は日本中世史・近世史。『仙台市史 特別編8 慶長遣欧使節』の編集を担当。2013年の慶長遣欧使節出帆400年・ユネスコ記憶遺産登録記念特別展「伊達政宗の夢」を担当。

問／仙台市博物館 ☎022-225-3074



▲国宝 短剣(クリス形) 仙台市博物館蔵

帰国後、「ローマ教皇パウロ五世像」(P5)とともに藩主伊達政宗に献納された。裾が開いた形の両刃の短剣。刀身の根元の部分は、金やルビー、紫色のガラス玉で装飾し、握りは神像を象っている。支倉常長が帰国途中のフィリピンで入手した可能性がある

## 伊達政宗は4つの要素を複合的に勘案して、支倉常長を慶長遣欧使節として派遣したのではないかと考えられます

### Q 伊達政宗は、なぜ支倉常長を慶長遣欧使節の代表に選んだのでしょうか？ どのような人物だったのでしょうか？

正確には慶長遣欧使節(以下使節)の正使は、フランシスコ会修道士のルイス・ソテロ<sup>\*</sup>です。使節団の先導役であり、交渉役と通訳も担っていました。支倉常長(以下常長)は副使でしたが、仙台藩を代表してスペインやローマで外交交渉の交渉をすすめる役目を命じられて、太平洋を渡っていきました。

本来なら重臣を派遣させてもおかしくない大役でしたが、伊達政宗(以下政宗)はなぜ常長を任命したのか…という理由は、現在の研究で以下のような4つの要素を政宗が複合的に勘案して決断したのではないかと、とされています。

- 1 常長は「使番<sup>つかいばん</sup>」という役目を与えられていた政宗の側近でした。使番は情報収集をしたり、交渉の使者に立ったりする役目を担い、いつもそば近くに仕えており、深い信頼関係にありました。
- 2 常長は、秀吉の命で政宗が朝鮮に出兵した時にも同行しています。海を渡って異国を体験している家来の1人でした。
- 3 使節が出発する前年、1612年(慶長17)頃に常長は大きな不幸に見舞われます。常長の実父が伊達家の財産に関する罪(詐欺や窃盗など)で切腹を命じられたのです。常長も連座する形で所領を没収され、仙台藩から追放されてしまいます。
- 4 海外での常長は、有能で、交渉上手でしかも教養ある人物だと評

価されていました。スペインやイタリアの要人たちの複数の記録に、常長の力量、資質が優れていると記されています。

政宗の心の内を考えると「気心も知れており、外国へ行った経験もあり、しかも大変有能な家臣である。父親の罪に連座する形で追放したものの、このままでは惜しい！ 苦難の旅ではあるだろうが、家臣として再び召し抱え、スペインやローマで外交交渉を行う使節として復権の機会を与えることもよいのではないか」という判断をして、抜擢したのではないかと考えられます。

常長もこの政宗の大きな決断と信頼に命を賭して応えようと思ったことでしょう。出発時の常長は44歳でした。

<sup>\*</sup>ルイス・ソテロ=1574年生まれ。セビリアの貴族出身。スペイン最古の大学・サラマンカ大学で学んだ後に1594年にフランシスコ会に入会して修道士となり、マニラで日本語を学んだ。1603年来日してさらに日本語に磨きをかけて京阪方面などで布教を始めた。のちに伊達政宗の知遇を得て、仙台領内で布教を許される。1613年には支倉常長らと共にサン・ファン・パウティスタ号に乗りメキシコのアカプルコを目指す。その後、支倉常長と共にスペイン、ローマで政宗の希望する「交易とキリスト教の布教」の交渉のために7年間過ごす。1622年、キリスト教禁教令が出ている日本に密入国し、1624年に火あぶりにより処刑されて51歳で殉教した。1867年、ローマ教皇ピウス9世により列福(聖人に次ぐ福者の地位)された。



◀サン・ファン・パウティスタ号(復元船)

石巻市渡波の「宮城県慶長使節船ミュージアム(サン・ファン館)」に係留中(現在、老朽化のため立ち入り禁止)

### 慶長遣欧使節行程図

1613年(慶長18)	10月28日	ソテロおよび常長の率いる慶長遣欧使節が月浦を出発
1614年(慶長19)	1月29日	使節一行、スペイン領メキシコのアカプルコに到着
	3月24日	常長らメキシコシティに到着
	6月10日	サン・ファン・デ・ウルワでスペイン艦隊に便乗。途中、キューバ島/ハバナに寄港
	10月5日	スペインのサンルカル・デ・バラメダ港に入港
	10月21日	スペインのセビリアに到着
	12月5日	スペインの首府マドリッドに到着。翌年1月30日、スペイン国王フェリペ3世に謁見
1615年(慶長20・元和元)	8月22日	マドリッドを出発してローマを目指す
	10月25日	フランスのサン・トロペ、イタリアのジェノバを経てローマに到着。11月3日、教皇パウロ5世に謁見
1616年(元和2)	1月7日	ローマを出発
	4月17日	フィレンツェ、ジェノバを経て、マドリッド付近に到着。5月初旬にセビリアに出発
1617年(元和3)	7月4日	セビリアからソテロと常長らが出発し、メキシコを目指す
1618年(元和4)	4月2日	サン・ファン・パウティスタ号に乗りメキシコのアカプルコを出航
	8月10日	マニラに到着
1620年(元和6)	8月	常長、便船を得て長崎に到着。ソテロはマニラに残る
	9月20日	常長、仙台に帰着



# 粘り強く外交交渉を続けた



▲ユネスコ記憶遺産・国宝 ローマ市民権証書  
仙台市博物館蔵

ローマ市議会が支倉常長に与えた証書。正式に市民権を与えとともに、常長を貴族に列するという内容が羊皮紙に金泥で書かれている



▶ユネスコ記憶遺産・国宝 支倉常長像  
仙台市博物館蔵

支倉常長がヨーロッパから持ち帰った自身の肖像画。実在の日本人を描いた油絵として国内最古の作品であり、ローマで制作されたとみられる

## 太平洋を渡りメキシコに到着後、「交易とキリスト教の布教」の許可を求めてさらに大西洋を横断してスペインへ

### Q 常長はサン・ファン・パウティスタ号に乗り、どのようなルートでなぜ7年にもわたる旅をすることになったのでしょうか？

1613年（慶長18）10月、ソテロ、常長を含め総勢約180人を乗せたサン・ファン・パウティスタ号は、スペインやローマを目指して月浦（石巻市）を出港しました（ただし、雄勝あたりから出航したのではないかという説もあります）。

一行は太平洋を約3ヶ月かけて横断してようやくスペイン領メキシコのアカプルコに到着しました。ここで下船して現在のメキシコシティに

行き、メキシコ副王に面会して政宗からの書状を渡します。書状には「仙台藩はメキシコと直接交易したい。キリスト教を布教するためのフランシスコ会修道士を派遣してほしい」という内容が書かれていました。

政宗は交易に主眼があったと思われるが、当時、スペインやポルトガルでは「交易とキリスト教の布教」はワンセットであると考えられていましたので「フランシスコ会修道士を派遣してほしい」とも願い出たのです。

副王とのやりとりは資料的に明確ではなく、恐らくそのほとんどがヨーロッパでの交渉へと委ねられたものとみられます。しかしその傍らで、日本ではキリシタン弾圧が始まっているなどの情報がメキシコにももたらされており、すでに彼らの外交交渉には暗雲が立ちこめていました。

1614年6月、常長ら日本人の一行とソテロら修道士合せて約30名がスペイン艦隊に乗り込み大西洋を横断してスペインを目指します。

なお、アカプルコに約1年係留されていたサン・ファン・パウティスタ号は1615年4月に日本に向けて船出します。スペインに同行しなかった残り約150名がどうなったのか、帰国したのは何名なのか、などについてははっきりとした記録が残っていません。

### メキシコ・キューバ航路



### ヨーロッパ航路



資料提供：仙台市博物館「慶長遣欧使節出帆400年・ユネスコ記憶遺産登録記念特別展図録」より

常長が記した7年間の日記19冊が発見されれば大スクープ。交渉の詳細、心の内が分かるのですが

Q 一行はスペインに上陸してからさらにローマに赴くわけですが、各地でどのような待遇を受けたのでしょうか？

常長たちはスペインのサンルカル・デ・バラメダ港に到着。ここから、グアダルキビル川を船で遡り、さらに陸路をセビリアへと目指します。

セビリアから、トレドを経てマドリッドに到着したのは1614年12月。ようやく、常長らがスペイン国王フェリペ三世に謁見できたのは翌年の1月末のことです。

常長は国王の前で堂々と演説して政宗からの「交易と布教をお願いしたい」という書簡を渡します。さらに、常長自身は「キリスト教徒になりたいのです。洗礼式にはスペイン国王に列席していただきたい」と願ひ出ます。この願ひは聞き入れられ同年2月にマドリッドの教会で洗礼式が執り行われ、国王のフェリペ三世や王女、貴族などが列席しました。

一方、スペイン側は「交易と布教」の願ひについては「前向きに検討する」といいながら言葉を濁します。なぜなら、常長一行が考えているよりもずっと詳しく日本の苛烈なキリシタン弾圧などの情報が複数届いていたからです。

その上、どうも一行の通訳と交渉に当たっているソテロの言うことは、信用ならないという空気も生まれていました。ソテロは、交渉が上手くいくようにという思いもあってか「政宗は多くの人々から将来將軍になると認められている」「政宗はキリスト教徒の王になりたいと思っている」などと誇大に話していたようです。

フェリペ三世からはっきりとした返事がもらえない常長は、ローマ教皇から援助を得ようと考えてローマに赴きます。

1615年8月マドリッドを出発し、約2ヶ月かけてローマに到着。一行は盛大な入市式(パレード)をしてローマの人々の大歓迎を受けます。その後、ローマ教皇パウロ五世にも謁見できました。常長ら使節団8名はローマ市議会から名誉市民にするというローマ市公民権証書を与えられました。また、常長を貴族に列しました。

しかし、教皇にも日本についてのさまざまなマイナス情報が届いていました。フランシスコ会修士の派遣には同意したものの「交易関係について



▲ユネスコ記憶遺産・国宝  
ローマ教皇パウロ五世像  
仙台市博物館蔵  
帰国後、常長が直接伊達政宗へ献納

しかし、教皇にも日本についてのさまざまなマイナス情報が届いていました。フランシスコ会修士の派遣には同意したものの「交易関係について

はスペイン国王が決定権を持っている、スペインでもう一度国王と交渉してほしい」といわれます。このように、ローマでは歓迎されたものの交渉の成果を得られないままに1616年1月に再びマドリッドに向かいます。

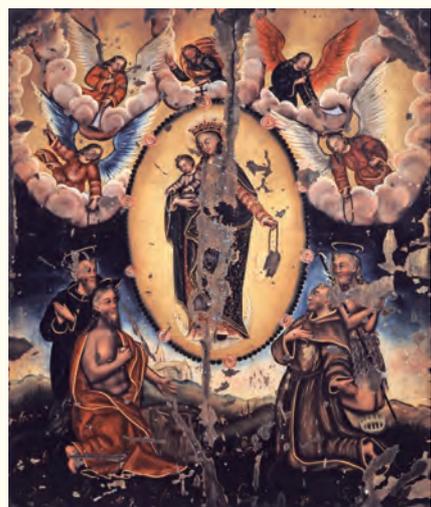
ですが、スペイン政府からは歓迎されないばかりかマドリッドに入ることも許されずにセビリアに移されます。そして、早く帰国するようにと促されながら、それでもこのままでは帰国はできない…と粘り強く交渉を続けるのです。スペイン政府は、ようやくフィリピンでソテロに政宗への返書を渡すと約束。とうとう帰国の途に着くことになります。

一行はスペインからメキシコに戻り、さらにアカプルコまで迎えに来ていたサン・ファン・パウティスタ号に乗ってフィリピンのマニラに到着したのが1618年8月。常長は、マニラで約2年滞在した後ソテロと別れて帰国の途につき、ようやく1620年9月に7年ぶりに仙台に帰着しました。政宗に謁見し、ローマ教皇の肖像画などを献上します。その数日後、政宗は藩内にキリスト教禁教令を発令します。

しかし、その後のことはほとんど記録に残っていません。帰着の翌年、常長は52歳で病死します。信仰は維持したようですが、亡くなるまでどのように生活していたのか、何の病気でどのようにして亡くなったのか…詳しいことは分かっていません。

実は、常長が月浦を出発してから帰着するまでに記していた日記が大小19冊あったといえます。明治の初年頃まではあったようですが、その後行方不明になっているのです。もし、今見つければ大スクープとなることでしょうか。7年間、常長がどのような気持ちで過ごしたのか、メキシコ、スペイン、そしてローマでの交渉に当たったの細かな経緯…きつと詳細に書かれていたのではないかと思うと残念なことです。

なお、ソテロは1622年にマニラから長崎に密入国してとらえられ、数名の宣教師たちと共に火あぶりの刑に処されて殉教します。その時にローマ教皇から政宗に宛てられた手紙も焼かれてしまいました。



▲国宝 ロザリオの聖母像  
仙台市博物館蔵  
常長が持ち帰った銅板画。キリシタン弾圧で折り曲げられたのか、中央に傷が走る

一行はスペインからメキシコに戻り、さらにアカプルコまで迎えに来ていたサン・ファン・パウティスタ号に乗ってフィリピンのマニラに到着したのが1618年8月。常長は、マニラで約2年滞在した後ソテロと別れて帰国の途につき、ようやく1620年9月に7年ぶりに仙台に帰着しました。政宗に謁見し、ローマ教皇の肖像画などを献上します。その数日後、政宗は藩内にキリスト教禁教令を発令します。

しかし、その後のことはほとんど記録に残っていません。帰着の翌年、常長は52歳で病死します。信仰は維持したようですが、亡くなるまでどのように生活していたのか、何の病気でどのようにして亡くなったのか…詳しいことは分かっていません。

実は、常長が月浦を出発してから帰着するまでに記していた日記が大小19冊あったといえます。明治の初年頃まではあったようですが、その後行方不明になっているのです。もし、今見つければ大スクープとなることでしょうか。7年間、常長がどのような気持ちで過ごしたのか、メキシコ、スペイン、そしてローマでの交渉に当たったの細かな経緯…きつと詳細に書かれていたのではないかと思うと残念なことです。

なお、ソテロは1622年にマニラから長崎に密入国してとらえられ、数名の宣教師たちと共に火あぶりの刑に処されて殉教します。その時にローマ教皇から政宗に宛てられた手紙も焼かれてしまいました。

知恵を出し合い粘り強く交渉を続ける、どんな困難も力を合せて乗り越えていく…常長に学びました

Q 常長の後半生はほんとうに過酷だったのですね。仙台経済同友会の皆さんにメッセージを伺いたいのですが？

日本国内でキリスト教弾圧が始まっていたにもかかわらず船出し、政宗の抜擢に応えようと苦闘した7年間でした。

現代風にいえば、交渉相手からはゼロ回答に近い「塩対応」で、さまざまな要求もスルーされることがありました。それでも、言葉も分からず文化も慣習も全く違う中で、一行はお互いに知恵を出しあい、粘り強く交渉し続けています。その努力には本当に敬服します。

失敗に終わった外交使節ではありましたが、常長は太平洋、大西の大海原を渡って、嵐にあったり健康を損ねたりしながらも、文字通り艱難辛苦を乗り越えて無事帰国できたことは、それだけでもすごいことだと思います。

400年後の今、東日本大震災、新型コロナウイルスの流行…大きく

社会や経済に影響を与える出来事があっても、皆で力を合わせて乗り越えていくしかない、ということ常長に教わっているような気がします。

それに、常長の足跡は現代の海外交流に結び付いています。メキシコのアカプルコ市と仙台市は姉妹都市となっていますが、400年前の常長一行が訪問したことがきっかけです。スペインと日本の友好関係が良好なのも常長が撒いた種が今花開いているといえます。

常長たちの長い旅は、その時に結果が出なくても長い目で見れば努力が無駄になることはない、と現代の私たちにも希望を持たせてくれるものだと思います。

※402号では、常長死後の支倉家について、そして宮城県内に支倉常長の墓とされている4つの墓の謎について「支倉常長その巻」として特集します。

## 新入会・交替会員紹介

会員総数 **330名** (2020年3月27日時点)

### 交 替 (4名)



幹事  
勝又 諭様  
三井物産株式会社  
東北支社長



会員  
内田 明生様  
丸紅株式会社  
東北支社長



会員  
西岡 巖様  
大成建設株式会社  
常務執行役員支店長



会員  
矢野 史朗様  
全日本空輸株式会社  
東北支社長

### COLUMN

## 100年前に発生した世界最大級のパンデミック

**世**界中に猛威を振るう新型コロナウイルスCOVID-19。4月8日現在、感染者は140万人、死亡者は8万人を超えている。

今から100年前、1918年～20年にかけて世界中で2000万とも5000万人ともいわれる犠牲者を出したのが「スペイン風邪」の流行だ。日本でも国民の約4割が感染し、約40万人の死亡者を記録している。その感染はどこに始まり、どうやって広がり、どのように終息を迎えたのだろうか。

「スペイン風邪」は、実はアメリカのカンザス州の基地から始まったと見られている。時はまさに第1次世界大戦のさなか。ヨーロッパ戦線へ送られたアメリカ兵がウイルスを運び、またたく間に世界中に広がった。「スペイン風邪」と呼ばれるのは、当時スペインが中立国で情報統制がなかったために、この伝染病の情報が主にスペインから発信されたからだという。

流行は、港町から始まって主要な経路沿いにある町から町へと広がった。死亡者の約半数が、20代から40代と若い世代だったことも悲劇を大きくした。近年の研究では、高齢者は類似の型のウイルスの大流行を子供のころに経験しているため、ある程度免疫ができていたのではないかとされている。

日本では、1918年に流行が始まり、一時は下火になったものの1920年初頭に2度目のピークが訪れた。当時はまだウイルスの存在すら分からず、ましてやワクチンなどの有効な治療法もなかった。取られた方策は、「人ごみに出ない」「マスクを着ける」、学校の休校や集会や興行の中止などで、現在の新型コロナの対策と驚くほど重なるところがある。スペイン風邪は、1920年に自然に終息を迎えた。それは、日本中の多くの人々がスペイン風邪に罹り、回復した人が免疫抗体を獲得したからだといわれている。



# ピックアップ瓦版

## 週末の杜の都閑散

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、県と仙台市が不要不急の外出自粛を要請した最初の週末の4、5日、仙台、日より増え、また人通りが少なくなった。



普段の日曜には5万人以上の通行量があるペDESTリアンデッキ。人通りが途切れる時もあった＝5日午後2時30分ごろ

た。いつもは市内でも最も通行量が多い、大田原町の無職女性(64)は、「ついにJR仙台駅周辺でも行き交う人はほとんどおぼつかず、つらつらとした道を歩いた。例年は花見客にぎわう青葉区の西公園。花見の自粛を求める看板には、密集・密閉・密接の三つの「密」を避ける感



5日は降雪(上)、仙台三越ともに臨時休業となった



商業施設に加え、休業した飲食店も目立った。一番町四丁自衛隊前。終日、人通りはほとんどなかった＝5日午後1時50分ごろ



花見自粛の看板が設置された西公園。5日午後2時10分ごろ

(出典：河北新報 2020年4月9日(木))

### 次号の特集のご案内

支倉常長が慶長遣欧使節としてヨーロッパに渡り、7年間の難雑辛苦の末に帰国してから今年でちょうど400年目を迎えます。今号に続き、次号特集でも知られざる支倉常長についてご紹介します。新型コロナウイルスの感染拡大を受け、東京を含む7都府県に緊急事態宣言が出され、経済界もこれまでにない状況を迎えています。皆様のご協力のもと、情報を共有し、叡智を集めて難局を乗り切ってまいりたいと思います。

仙台経済同友会

**BIMONTHLY REPORT**

2020年4月号 No.401 令和2年4月20日発行

○発行人/大山健太郎 一力雅彦 ○編集人/川嶋輝彦 ○発行所/仙台経済同友会  
〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-6-1 仙台第一生命タワービルディング12階  
TEL/022-223-8555 FAX/022-262-2650 URL/http://sendai-doyukai.org  
製作・印刷/今野印刷株式会社